

日本労働社会学会会員各位

日本労働社会学会通信 第21期 第3号 2008年11月25日(火)

日本労働社会学会事務局(第21期)
〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-4
横浜国立大学経営学部 小川 慎一(おがわ・しんいち)
Tel & Fax: 045-339-3767 E-mail: sogawa@ynu.ac.jp
学会HP: <http://www.jals.jp>

※事務局担当が笹原恵先生(静岡大学)から、小川慎一(横浜国立大学)へ
引き継がれました。慣れない点もありご迷惑をかけることもありそうですが、
よろしくお願ひします。

★会費納入★恐れ入りますが学会費の納入は、現金書留ではなく、下記の口座
までお願ひします。

【郵便振替口座】口座番号: 00150-1-85076 加入者名: 日本労働社会学会
【銀行振込口座】三菱東京UFJ銀行 浜田山出張所
口座番号: 普通預金 0411742 口座名: 日本労働社会学会 榎本環
◆年会費 学生・院生会員:6,000円 / 一般会員:10,000円

今後の日程:

1. 次回幹事会 2008年12月6日(土) 午後12時30分
拓殖大学(文京区、地下鉄・茗荷谷駅下車)D館6階第2会議室
2. 次回研究例会 2008年12月6日(土) 幹事会終了後
(午後15時30分開始予定)
拓殖大学(文京区、地下鉄・茗荷谷駅下車)D館6階第2会議室
3. 第14回 関西労働社会学研究会 2008年12月20日(土) 午後13時-17時
佛教大学 11号館 2階会議室

もくじ

- I. 研究例会のご案内
- II. 第14回 関西労働社会学研究会のご案内

I. 研究例会のご案内

今回の研究例会が下記の要領で開催されます。ふるってご参加ください。
日時:2008年12月6日(土) 幹事会終了後(午後15時30分開始予定)
会場:拓殖大学(文京区、地下鉄・茗荷谷駅下車)D館6階第2会議室

アクセスマップhttp://www.takushoku-u.ac.jp/map/acc_b.html

キャンパスマップhttp://www.takushoku-u.ac.jp/map/map_b.html

報告者: 恵羅 さとみ 氏 (東北大学大学院文学研究科グローバルCOEフェロー)

仮題: アメリカにおける労働運動と移民運動の交差

——ローカルな文脈における「非合法」移民組織化の経緯から

※報告要旨は追ってご連絡いたします。

(神谷拓平)

Ⅱ. 第14回 関西労働社会学研究会のご案内

第14回 関西労働社会学研究会が下記の要領で開催されます。
ふるってご参加ください。

日時:2008年12月20日(土) 午後13時-17時

会場:佛教大学 11号館 2階会議室(京都市北区紫野北花ノ坊町96)

案内図:<http://www.bukkyo-u.ac.jp/bu/guide/access/>

問い合わせ先:高橋 伸一 (takashin07@bukkyo-u.ac.jp)

第1報告:

梁京姫(立命館大学 非常勤講師)

テーマ:非正規職関連法が女性労働市場に及ぼした影響

【概要】

1997年の通貨危機以降、韓国の労働市場は非正規職化に向かってきたといっても過言ではない。とりわけ、女性賃金労働者の場合は70.9も非正規職であった(2001年現在)。こうした労働市場の非正規職化に歯止めをかけようと制定・改定されたのが非正規職関連法である(2006年12月、2007年7月実施)。

本報告では、韓国で非正規職が拡大した背景を検討し、非正規職の活用防止のために作られた非正規職関連法について紹介する。その上、各企業が非正規職関連法の対策のために導入した人事管理戦略類型を分析し、女性労働への影響を考察する。

第2報告

Nelisa MLONYENI(ムロニェニ ネリッサ)(国立奈良女子大学社会生活環境学専攻博士後期課程)

テーマ:「専業主婦」という定義の曖昧さー社会学の視点からー

【概要】

As societies are transforming, reaching escalated levels of modernization and transgressing the boundaries of orthodox definitions for societal roles, the term 'housewife' is perceived ambiguous in global social discourse and labour terminology.

The ambiguousness of the term 'housewife' is evident through comparison among societies, within societies and within social institutions. This paper then examines the reasons for and the social implications of the ambiguity of this term in a wider comparative perspective. A two-stage methodology was used in an effort to critically unearth the core of this ambiguity. Firstly, survey data obtained from research recently conducted in Japan was used to highlight the challenges posed by the ambiguousness of this term. Secondly, a quadruple checkpoint system was designed to concretize the meaning of 'housewife'.

The paper concludes by discussing the complexities brought about by the cultural plurality in defining what it means to be a housewife. A functional universal definition is recommended. However, discovering the rationale for the ambiguity of the term 'housewife' seems to be tantamount to seeking inflexible and distinct definitions for an ambiguous role rather than seeking an ambiguous term for a distinct role.

(Keywords: housewife 専業主婦, labour terminology, 労働についての専門用語, social discourse 社会的言説)

(高橋 伸一)

以上